

## 鷹ノ巣殉教記念ミサ(練り直し)(ルカ 6:39-45)

迫害に打ち勝つ信仰を学んで持ち帰る



3月2日、鯛ノ浦小教区内の鷹ノ巣で起こったキリシタン六人斬り殉教記念碑前でミサを一緒にささげ、説教をさせてもらうことになっています。今週はその際の説教をもとに説教を組んでおります。起こったことをかいつまんで話すと、「キリシタンを征伐に行こう」と考えた侍が、「試し切り」と称してキリシタンの親子六人を刀にかけた事件です。

教会の暦では、今週火曜日までが年間の季節で、5日灰の水曜日からは四旬節に入ります。原則として、四旬節の日曜日には主日のミサ以外のミサ(結婚式ミサ、葬儀ミサ、種々の機会のミサ、信心ミサなど)をささげることができませんので、鷹ノ巣でのミサが3月2日に計画されたことはとても賢明な判断でした。

鷹ノ巣で命を落としたのは中田寅吉の妻ヨネとその子二人、ヨネの姉夫婦中田友吉・中田コンとお腹の子でした。寅吉の留守中の出来事でした。その後寅吉はのちの島田喜蔵神父様の姉チヨと再婚します。どのような事情であったか分かりませんが、信仰のゆえに命を奪われたこの出来事を、再婚してもうけた子どもたちに語り伝えようとしたというのは十分考えられることです。

再婚してもうけた子どもは五人でした。倉吉、イネ、モミ、七右エ門、留蔵です。そのうち、七右エ門の末っ子の子どもが、中田神父とその兄弟姉妹です。私は祖父の記憶がありませんが、祖母ツネは祖父から十分に鷹ノ巣キリシタンの殉教物語を聞いていたようで、私が神学校にお世話になってから祖母を訪ねに行くと決まって鷹ノ巣の殉教の話をお聞きしておりました。

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。」(6・43-44)中田寅吉が最初に結んだ家族は、殉教という実を結びました。再婚によって結んだ家族も、確実に信仰の試練を後世に語り伝えました。

先祖の信仰に養われた月足らずのような私も、司祭に呼ばれました。「木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。」もしこれが文字通りであるなら、中田寅吉とその家族は「良い実を結んだ良い木」だったのだと思います。

六人斬りの出来事が起こったのはキリシタン禁令の高札が撤去される3年前、1870年、明治3年です。1月27日、冬の盛りに起こりました。今日は2025年、令和7年3月2日ですから155年が経過したことになります。155年前の話を語り継いでいる。これはすごいことです。

人は自分の体験を、後世に語り継ごうとするものですが、しかしあまりにも残酷な出来事は語れません。広島・長崎に投下された一発の原子爆弾、その犠牲者の多くは、長い間出来事を語ろうとしなかったそうです。あまりにも悲惨だったからでしょう。

私たちはどうでしょうか。たとえば下五島地区には牢屋の窄の殉教

の歴史がありますが、これから 10 年後に出来事は語り継がれているでしょうか。少し延ばして 20 年後の未来を考えたとき、迫害の歴史はまだ語られているのでしょうか。

信仰体験と被爆体験は、語り方が少し違うかも知れません。被爆体験は、二度と起きてはいけないこととして語り継いでいますが、信仰体験は、迫害がもし再び起こったら、あなたは同じように命をかけますかと問いかけます。信仰の試練は、これからも起こるでしょう。その試練と正面から向き合う勇気こそ、語り継ぐべきものなのだと思います。

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」  
(マルコ 16・15) 私たちには、どんな世界が待っているのでしょうか。今この時代も私たちの生きている世界です。私たちは信じている信仰の価値を伝えます。そして 10 年後の世界にも、たとえそこで迫害や試練を体験するとしても、イエスの福音は生きる価値がありますと、伝える人でありたいものです。

各地で経験した迫害に係図で繋がる人はそう多くはないかも知れません。しかし迫害に正面から向き合う勇気を学んで帰るなら、私たち皆が「良い実を結ぶ木」です。マタイ 5 章の 11 節「わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである」と置き換えてもよいでしょう。

「キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。」(2 テモテ 3・12) 今日のミサで学びを持ち帰る人は全て、イエスが語る幸いを生きる人なのです。勇気を持って、迫害に打ち勝つ信仰を後世に語り継いでいきましょう。

6:39 イエスはまた、たとえを話された。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。

6:40 弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積み、その師のようになれる。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

6:42 自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

◆実によって木を知る

6:43 「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。

6:44 木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。

6:45 善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」